

市町村名		大宜味村								
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	1- 大宜味村観光情報発信整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-イ					
	市場特性に対応した誘客活動の展開									
担当部課名	産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)			
事業内容	観光資源(文化財、自然資源、特産品、体験事業)などの情報をより効果的に広く発信するため、大宜味村産業まつりを開催し、誘客を促進する。									
実施方法	直接実施		委託		補助		負担		その他 ()	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
	予算の状況	(a)当初予算額	7,505	13,811	1,650					
		(b)予算現額	6,790	11,781	1,650					
		(c)増減額(b-a)	715	2,030	0					
		(d)繰越額	-	-	-					
		A.計(b+d)	6,790	11,781	1,650					
	B.執行済額		6,590	11,781	1,650					
	うち交付金充当額		3,792	9,424	1,320					
	次年度繰越額		-	-	-					
	執行率(%) (B/A)		97.1%	100.0%	100.0%					
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所については、記載箇所を誤っていたため、正しい箇所に修正(第3章-3-(2)-ア(該当箇所無し) 第3章-3-(2)-イ)								
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況							
			24年度	25年度	26年度	27年度				
	産業まつり誘客イベント開催支援	目標	(3イベント)	(3イベント)	(開催支援)	()				
		実績	3イベント	3イベント	3イベント					
		目標	()	()	()	()				
実績										
達成状況説明	・産業まつり:誘客増のための、ステージイベント シークワサー苗、果実売り体験を実施。会場活用イベント 保育園生参加シーちゃんチームVSきじむなーチームリレー対決を実施。講演イベント パネルディスカッション「シークワサーの新たな機能性と活用法について」を実施した。									
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)			
	産業まつり参加者数	目標	()	(3,000)	(3,000)	(5,500)	H24～H28累計12,000)			
		実績		4,000	4,000	5,000				
		目標	()	()	()	()	()			
		実績								
進捗状況説明	・産業まつり:前年より引き続き友好交流「市」「町」である、宮城県石巻市と福島県西会津町を招いての特産品販売や、ステージイベントを自当てに、村外来客者も多く来場した。また、講演イベントとして、シークワサーに関する講演会「シークワサーの新たな機能性と活用法について」を開催し、村内来客者にも好評だった。しかし、イベント1日目の天候不順(風が強く、日照時間が短(会場内が寒い)のため、客足が伸びず目標を達成することはできなかった。									

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本村は大規模なイベント施設が無く、悪天候対策や、来場者駐車スペースの十分な確保が常に課題である。</p> <p>大宜味村らしいイベントを定着化させる事により、村外来場者の固定化を促すため、新イベントの定着化によるイメージ付けが課題である。</p> <p>展示会場(コーナー)におけるシークワサーの紹介の充実農産物をPRする展示コーナーのスペースでの、シークワサーの系統や成分表などの充実が課題である。</p>	<p>開催場所については、会場周辺で十分な駐車スペースを確保することが困難なため、駐車場人員動員の増による、スムーズな誘導・駐車や、テナントレイアウトを工夫し改善検討していく。</p> <p>シークワサー苗、果実セリ体験など大宜味村らしいイベントを企画し、定着させることにより村外来場者の固定化を促す。</p> <p>大宜味村シークワサー産地振興協議会とも連携し、村の特産物であるシークワサーに関する展示物を充実させる事を検討する。</p>

今後の取り組み方針

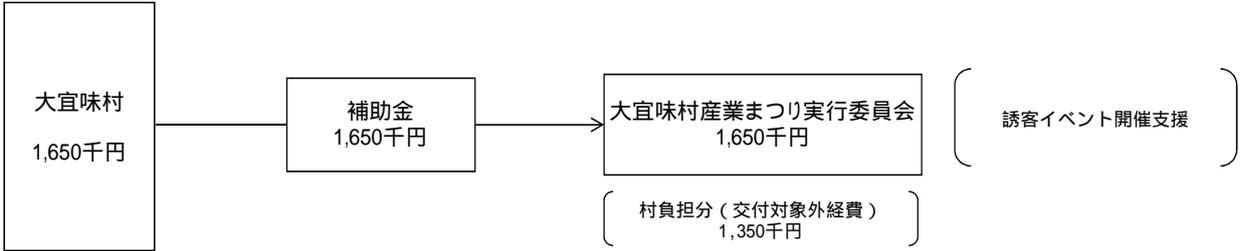
開催場所については、会場周辺で十分な駐車スペースを確保することが困難なため、駐車場人員動員の増による、スムーズな誘導・駐車や、テナントレイアウトを工夫し改善検討していく。

シークワサー苗、果実セリ体験など大宜味村らしいイベントを企画し、定着させることにより村外来場者の固定化を促す。

大宜味村シークワサー産地振興協議会とも連携し、村の特産物であるシークワサーに関する展示物を充実させる事を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
3,000	1,650	1,320	330	1,350



資金の流 れ、費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は産業まつり実行委員会であり、妥当であったと考える。 ○予算規模については適正な規模となっている。また費目・用途についても必要なものに限定されており適切なものとなっている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1- ふるさと河川環境再生・活用整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-イ
担当部課名	建設環境課	事業実施(予定)年度 平成26～31年度	陸域・水辺環境の保全
		沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)

事業内容
大宜味村謝名城・喜如嘉地区の魅力あるまちづくりとリンクさせた地域の活性化が図れる施策として、河川敷の空間の有効活用、治水安全度の向上や河川全体の自然環境再生を視野に、大川川とその周辺整備を実施する。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	26,184				
	(b)予算現額	11,431				
	(c)増減額(b-a)	14,753				
	(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	11,431				
	B.執行済額	11,431				
	うち交付金充当額	9,144				
	次年度繰越額	-				
	執行率(%) (B/A)	100.0%				
	予算の状況の説明	当初、平成26年度内で自然環境調査業務及び推進計画策定業務を予定していたが12月補正で2箇所分の予算14,754千円を減額した。不用額14,754千円については委託の入札残や当初予定していた推進計画が環境調査の期間延長に伴い実施できなかったことによるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況				
		26年度	27年度	28年度	29年度	
	村内の12の河川において、植物・生物生息調査、環境影響調査を実施	目標	(調査を実施)	()	()	()
		実績	10河川			
	推進計画策定業務の実施	目標	(計画策定業務の実施)	()	()	()
		実績	0件			
達成状況説明	平成26年度に予定していた自然環境調査については当初12河川でしたが、渡海川、ハンザキ川を除く10河川に変更実施することが出来た。しかし、環境調査に必要な期間が予定よりも大幅にかかってしまい、その後続く推進計画策定業務の発注を行うことが出来なかった。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
		自然環境調査の実施	目標	(実施)	()	()
		実績	実施			
	推進計画の制定	目標	(制定)	()	()	()
	実績	未制定				
進捗状況説明	当初、平成26年度内で自然環境調査業務及び推進計画策定業務を予定していたが環境調査の中で新たな調査項目が必要となり業務期間を延ばす必要がたためその後予定していた推進計画を実施できなかった。増減額 14,754千円については自然環境調査の入札残(13,751千円)と当初予定していた推進計画(1,003千円)の未実施分である。					

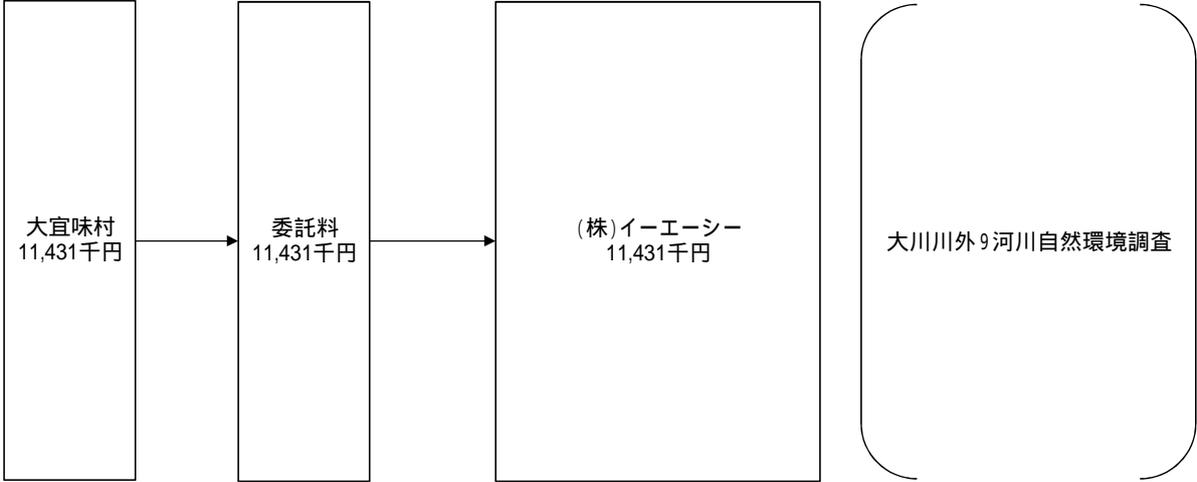
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>現在河川沿いには雑木が生い茂り、生活雑用水等の流入がみられ河川環境に悪影響が生じている。昔は憩いの場として利用されていた河川環境が失われており、地域からも癒やされる憩いの河川へという思いが根強くある。大川川は護岸擁壁と未整備の自然土波が混在しており、石積護岸箇所は築50年以上を経過していることから老朽化による護岸崩壊等が多々起こっている状況。平成21年度に大宜味村観光振興基本計画を策定し観光振興への気運が高まる中、近年河川沿いの喜如嘉土地改良区内(田園)で栽培されているオクラレルカが人気となり、現地を訪れる観光客も年々増えている。田園を回る道路は河川に接しており、河川沿いには景観に配慮した整備が必要となる。平成26年度内に予定していた推進計画については、環境調査の中で新たな調査項目が必要となり、その調査に不足の日数が必要となったことで業務期間を延長した。そのため、あとに予定されていた推進計画を実施することが出来ない状況となった。</p>	<p>大宜味村謝名城・喜如嘉地内を流れる大川川について魅力あるまちづくりとリンクさせた地域の活性化が図れるような施策として本事業を展開する。そのため、河川全体の自然環境再生を視野に入れ、景観にも配慮した計画を推進する必要がある。計画を推進するにあたっては、これまで河川と親しんできた地元の方々の意見を反映させることが出来るようワークショップを開催していく。また、平成26年度に予定していた2つの業務のうち推進計画を実施することができなかった事をふまえ、平成27年度も2本の業務委託の発注があることから、早期業務着手が出来るよう努めたい。</p>

今後の取り組み方針

今回実施できなかった推進計画策定業務は今後の河川整備に向け重要な計画となるため、27年度事業として実施する予定である。計画策定後、大川川の河川整備詳細設計業務を平成27年度内で実施し、平成28年度以降の工事着手へ向け推進していきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
11,431	11,431	9,144	2,287	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1- 大宜味村文化財活用促進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度 平成25～28年度	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
		沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)

事業内容	観光立県である沖縄振興に寄与することを目的に、地域資源文化財を活かした村内に現存する貴重な歴史民俗資料・野生生物の保存整備を行い、その展示・活用を行う事で村の魅力の1つとし、そこから文化資源を活かした観光振興・地域の活性化を図る。				
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	4,000				
	(b)予算現額	3,780				
	(c)増減額(b-a)	220				
	(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	3,780				
	B.執行済額	3,780				
	うち交付金充当額	3,024				
	次年度繰越額	-				
	執行率(%) (B/A)	100.0%				
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
		おおぎみの昔話絵本化	目標 (絵本化)	()	()
	実績	絵本化			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	4種類のおおぎみの昔話を活かした絵本作成を行い、後世へ貴重な資料を残すことができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
		おおぎみの昔話の伝承	()	(昔話の伝承)	()	()
		実績	4種類の絵本を作成			
	方言等の継承・保存	()	(方言等の継承・保存)	()	()	()
		実績	4種類の絵本を作成			
	郷土学習等での活用	()	(村内各学校に配布)	()	()	()
	実績	村内各学校に配布				
進捗状況説明	おおぎみの昔話を活かした絵本作成事業選定委員会委員より意見等を集約し、多くの昔話の中から4種類に選定し絵本作成し、郷土学習等での活動が図られ、昔話の伝承だけでなく、方言等の継承・保存にも繋がった。					

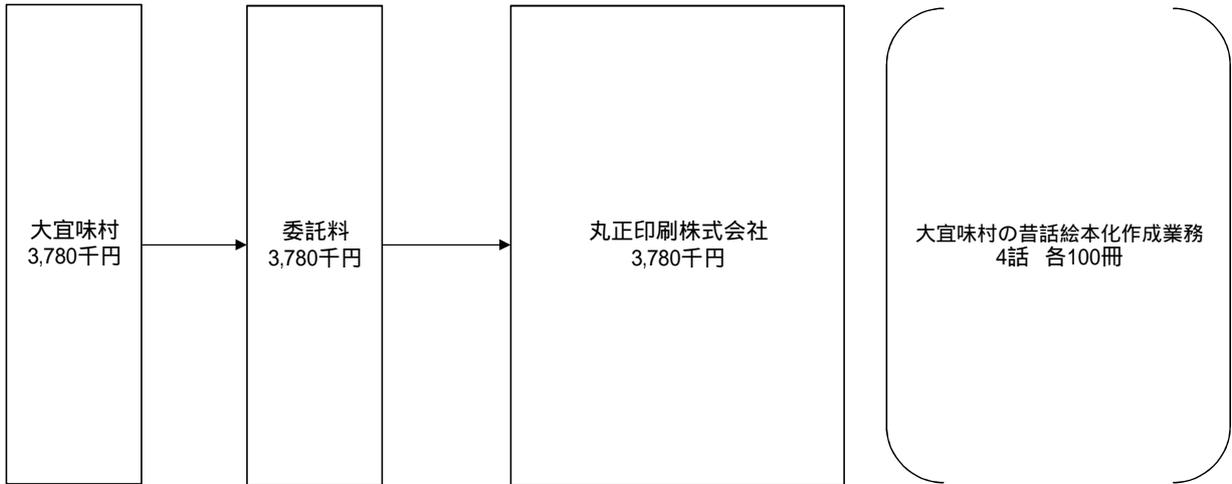
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>大宜味村には多くの昔話があるが、活字のみの文章でまとめられており、挿絵等のイラストがなく、子ども向けではなかったため、大宜味村の昔話の伝承や地域の方言などを子ども達に伝えきれない状況であった。</p> <p>絵本を活用して、昔話を伝承し、方言等を継承・保存していくため、子ども達へ絵本に関わる機会を増やし、大人も読み聞かせ等の取組に関わることで絵本を身近に感じてもらうようにすることが必要と考える。</p>	<p>今回の事業で4種類の絵本化を行ったが、本村にはまだ多くの昔話があり、絵本化を行っていない昔話についても、後世に伝えていく方法を検討する必要がある。</p> <p>講座での活用など、子ども達へ絵本を身近に感じる取り組みを検討していく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

作成した絵本を学校または地域の読み聞かせで活用し、また講座等でも活用することで、おおぎみの昔話の伝承を後世へ受け継ぎ、絵本化されていない昔話についても、伝承していく取り組みの検討を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,780	3,780	3,024	756	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先の選定は指名競争入札で決定し、予算規模も適正な範囲と考えている。</p> <p>○費目・使途も事業目的に即した適正な支出である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

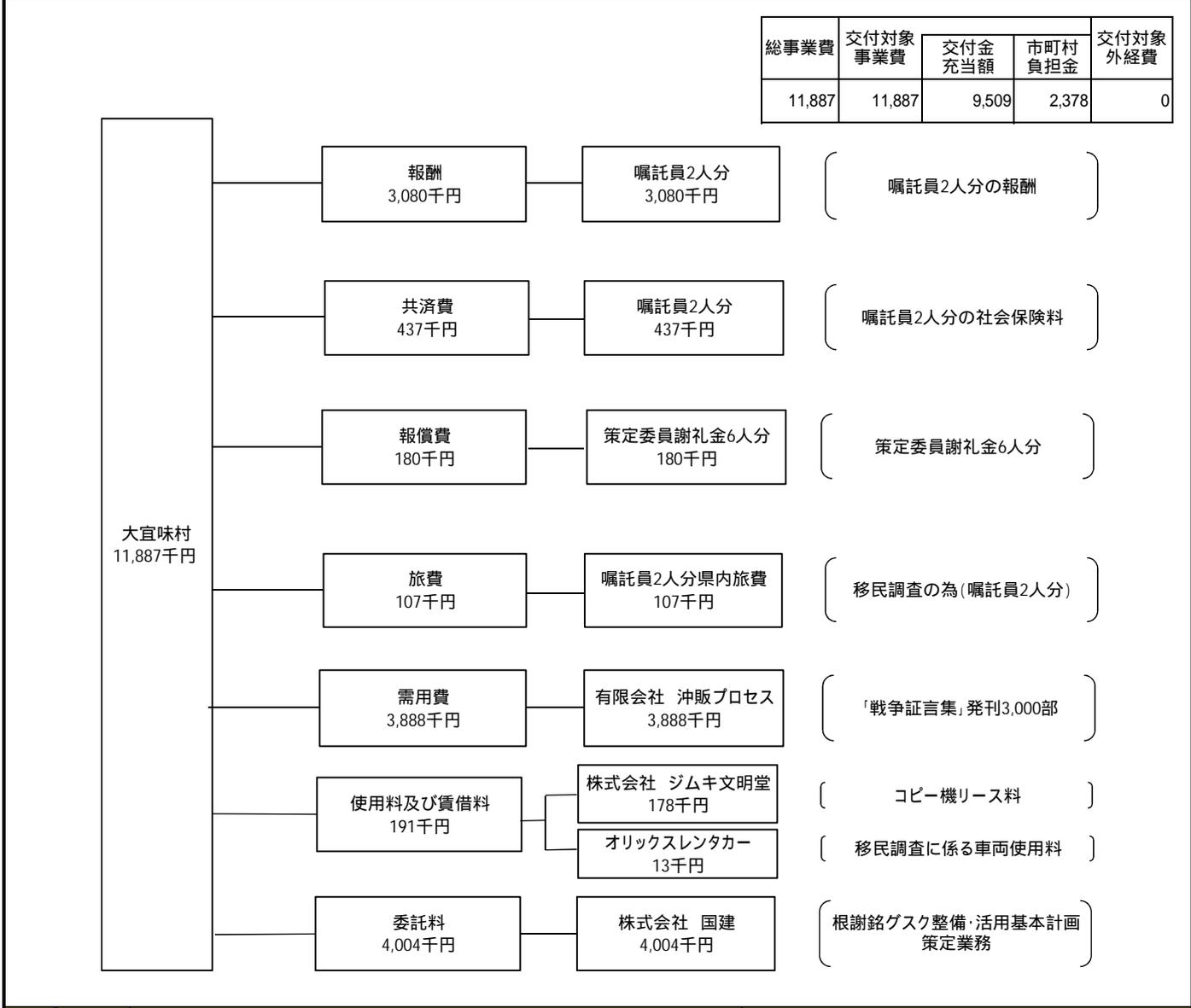
市町村名		大宜味村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1- 大宜味村歴史と文化検証事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(4)-ア		
	村史編纂室		事業実施(予定)年度 平成26～29年度		沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
担当部署名			沖縄振興基本方針該当箇所		-1-(1)		
事業内容	昭和53年度に刊行された「大宜味村史」を再点検し、取り上げられていない分野(自然・沖縄戦・民俗・ことば・移民・出稼ぎ・映像記録・写真等)を新たに編纂し、村を訪れる人たちに情報提供すると共に、沖縄本島最北の築城である根謝銘城址を調査することにより観光資源として活用していく。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	14,976				
		(b)予算現額	14,976				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	14,976				
	B.執行済額		11,887				
	うち交付金充当額		9,509				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		79.4%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業のうち戦争遺跡調査報告書の発注、海外移民調査の発注が未実施となったため予算残が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	戦争証言集印刷の発注	目標	(発注)	()	()	()	
		実績	発注				
	戦争遺跡調査報告書の発注	目標	(発注)	()	()	()	
		実績	未発注				
	根謝銘城址調査計画の発注	目標	(発注)	()	()	()	
		実績	発注				
	海外移民調査の発注	目標	(発注)	()	()	()	
		実績	未発注				
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 「戦争証言集」の編纂、印刷発注 「戦争遺跡調査報告書」については、調査に必要な人員が確保できず、未発注となった。 「根謝銘グスク整備活用基本計画」策定にあたり有識者による策定委員会を3回実施し計画を策定した。 H26年度では八重山移民の聞き取り調査、情報収集を主に行い海外移民の調査を行えなかったため未発注となった。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	戦争証言集発刊	目標	()	(発刊)		()	()
		実績		発刊			
	戦争遺跡調査報告書の製本	目標	()	(報告書製本)		()	()
		実績		未実施			
	根謝銘城址調査計画の策定	目標	()	(計画策定)		()	()
		実績		策定			
	海外移民調査の完了	目標	()	(調査完了)		()	()
		実績		未実施			
	進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 「戦争証言集」発刊 「根謝銘グスク整備活用基本計画」策定 当初、囑託員3名の予定で戦争証言集DVD化・戦争遺跡調査も計画していたが、募集に対し2名の応募で十分な人員を確保できず未実施となっている。 移民調査については、26年度は八重山での聞き取り調査を行った。海外移民については27年度以降実施予定。 				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・村史編纂委員の任期が切れており、委員会を開催することができなかったことから、委員を早急に選任し新村史編纂基本計画に基づき発刊に向けて編纂・執筆業務を進めていく。 ・26年度は嘱託員3人の募集に対し2人(うち1人は6月より雇用)と十分な人員が確保できず目標の調査が未実施となったものもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は嘱託員2人を確保した上で、村史編纂室に職員を配置し業務の効率化を図っていく。 ・今年度未実施となった海外移民調査については、より多くの情報・資料を収集できることが期待されることから、平成27年度開催予定の世界のウチナンチュ大会に向けてのパイプ作りを目指す。 ・根謝銘グスクの発掘調査については、より専門的な知識を要する人材の確保が必要となる為、学芸員等の募集も検討する必要がある。

今後の取り組み方針

新村史編纂基本計画に基づき、村の歴史に関する様々な資料を収集。これまで村史編纂室では嘱託員を配置し総務課長が室長を兼ねる体制で業務を行ってきたが、業務の効率化を目的として村史編纂室への職員の配置も含めて村史発刊業務を進めていく。村史発刊においては、本村の歴史を検証するだけでなく村を訪れる人々への情報提供ツールとともに、観光資源として活用していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



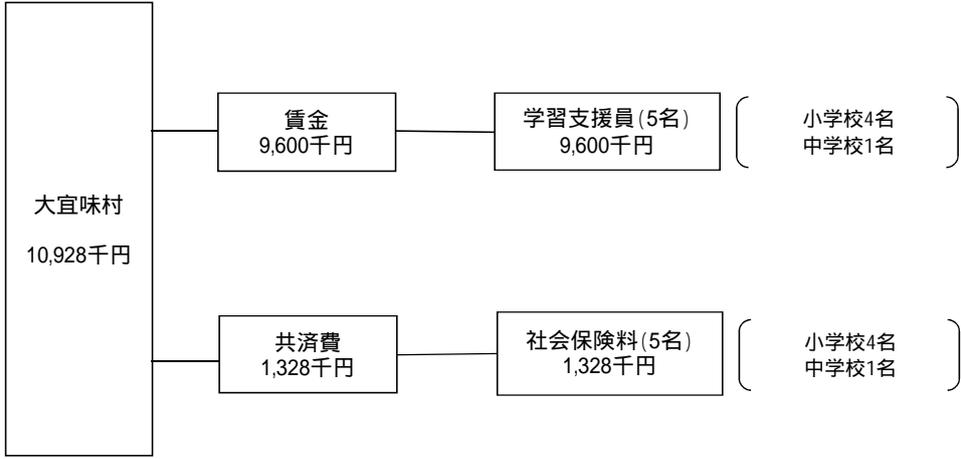
資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	嘱託員の採用については、公募により行っており、適正であった。 ○人員確保の不足による未実施事業のため予算残が生じたが、実施できた事業内容については予算規模は適正であった。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		大宜味村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2- 学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(3)-ア		
	確かな学力を身につける教育の推進		沖縄振興基本方針該当箇所		-3-(1)		
担当部課名	教育委員会 教育課		事業実施(予定)年度	平成25～27年度			
事業内容	将来の大宜味村を担う児童生徒の基礎学力の定着を図るため、村内の小学校4校と中学校1校に学習支援員を配置する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	10,976	10,976			
		(b)予算現額	10,976	10,931			
		(c)増減額(b-a)	0	45			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		10,976	10,931			
	B.執行済額		10,910	10,928			
	うち交付金充当額		8,728	8,742			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		99.4%	99.97%			
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容は計画どおり執行した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	学習支援員配置数 村内小学校4人・中学校1人	目標	(4小学校×1人 1中学校×1人)	(4小学校×1人 1中学校×1人)	()	()	
		実績	4小学校×1人 1中学校×1人	4小学校×1人 1中学校×1人			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・村内の各小中学校に1名学習支援員を配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	支援を要する学校うち、教育環境が改善された割合	目標	()	()	(80%)	()	()
		実績			100%		
	支援を要する学校のうち、学習支援員が配置されている学級の割合	目標	()	()	(100%)	()	()
		実績			100%		
	〔前年度成果目標〕 学習支援員 村内4小学校各1人=4人 1中学校1人配置=1人	目標	()	(4小学校×1人 1中学校×1人)		()	()
実績			4小学校×1人 1中学校×1人				
進捗状況説明	・村内すべての小中学校に学習支援員を配置することにより児童生徒への指導が充実した。 ・村内小学校については1校につき1人配置しているが、全校生徒が各学校平均35人程度であり、35～40人の学級に1人学習支援員を配置するのと同程度の規模で配置しており、生徒人数に対して十分な人数の配置ができています。 ・村内中学校については全校生徒89人に対して1人の学習支援員の配置であり、小学校に比べ支援対象人数が多いが、生徒人数が多いこともあり県採用職員の数も多いため、1人でも十分な支援ができています。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から公募範囲を国頭教育事務所管轄内まで広げたが、まだ学習支援員の確保が困難であり、公募の方法を検討する必要がある。 ・人員については、現在のところ各学校1名で足りているが、平成28年度に4小学校を1小学校へ統合を予定しており、1学年辺りの人数が増加するため配置人数を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・村内防災無線や行政区単位での呼びかけでは不十分。 ・統合後の児童生徒数に応じた適切な配置人数の検討をしていく。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・公募範囲は国頭教育事務所管轄内とし、村のホームページ等インターネットを通じた公募を行う。 ・他市町村から各学校の生徒人数に対する支援員の配置人数を調査し、平成28年度の小学校統合以降の配置人数を策定する。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
10,928	10,928	8,742	2,186	0



資金の流 れの点 検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。 不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要な支援員の賃金と共済費を支払った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	地域支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-イ			
担当部課名	教育委員会	教育課	事業実施(予定)年度	平成25～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	家庭・地域の教育機能の充実 -3-(1)	
事業内容	学校と地域の連携を充実させ、不登校やいじめ等のない学校教育を支援する地域支援員を配置する。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,195	2,195			
		(b)予算現額	2,197	2,186			
		(c)増減額(b-a)	2	9			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		2,197	2,186			
	B.執行済額		2,197	2,186			
	うち交付金充当額		1,757	1,748			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容は計画どおり執行した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所については、記載箇所を誤っていたため、正しい箇所に修正(第3章-5-(1)-ウ(該当箇所無し) 第3章-5-(1)-イ)					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	地域支援員配置数 村内中学校1校1人配置	目標	(1中学校×1人)	(1中学校×1人)	()	()	
		実績	1中学校×1人	1中学校×1人			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・中学校に配置し、不登校生徒の登校支援や公民館学習を主にサポートしている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(27年度)
	地域支援員(村内1中学校配置)	目標	()	(1中学校×1)	(1中学校×1)	()	()
		実績		1中学校×1	1中学校×1		
	不登校者出席率	目標	(27%)	(40%)	(40%)	()	(40%)
		実績		44%	48%		
	進捗状況説明	・中学校に配置し、不登校生徒を主にサポートしている。学校に足が向かない場合は、家庭を訪問し生徒の状況を確認しながら登校支援を行っている。地域支援員配置前と比べ、村の教育相談員や区長とも連携が取りやすくなっている。					

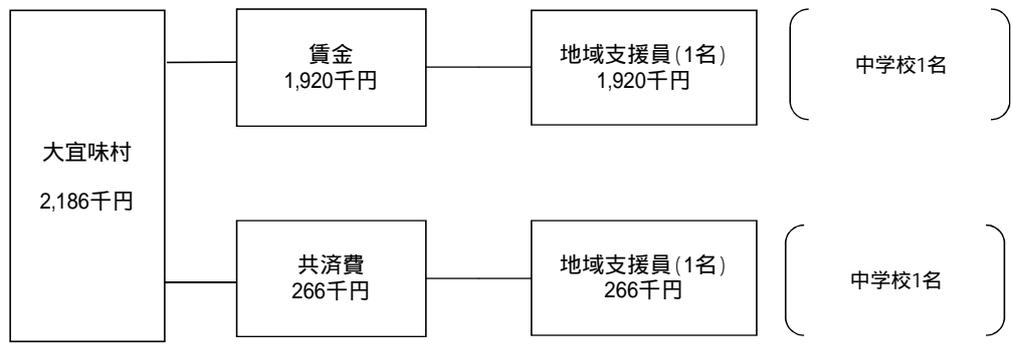
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内では支援する生徒に対して楽観視されている所もあり、現状維持の支援で問題無いとしていたが、教育相談員からの報告を受けている内容では登校し始めている中で他生徒間のトラブルがあったことを気にしていたりと、生徒の状況の認識が違っていた。 ・地域支援員が居ることで教育委員会で学校の様子を把握しやすくなっているが、問題についての認識の違いから、お互いの考える「必要な支援」について温度差がある。 ・支援員について村内から職員を選出しており、地域の不登校改善に対して積極的に取り組んでいた反面、支援員が保護者と親しい間柄であることからデリケートな内容について意思疎通が難しい状況があった。 ・出席率について、支援する生徒が同程度の日数登校しているわけではなく、偏りがあり、出席率が低い生徒も居る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と教育委員会で支援についての情報交換が必要である。 ・保護者との意思疎通をどう図るか。 ・出席率の低い生徒をどのように支援していくか。

今後の取り組み方針

・学校内、教育委員会内での情報共有を行い、各々での認識を併せた上で、学校と教育委員会間での情報交換会を定期的を開催する。(年4回程度)
 ・保護者との関係性や、生徒に応じた支援方法など地域支援員の資質向上を目指し、研修等に参加する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,186	2,186	1,748	438	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。 不用額は無く適正な規模であった。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要な支援員の賃金と共済費を支払った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		大宜味村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2- 「ぶながやの里」地域人材育成支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(2)-イ		
	生涯学習社会の実現		沖縄振興基本方針該当箇所		-3-(1)		
担当部課名	教育委員会 教育課		事業実施(予定)年度	平成25～28年度			
事業内容	各種団体の生涯学習及び青少年の学校外活動における学習機会の拡充を図り、本村の自然や文化、社会への基礎的な興味関心を培い、地域リーダーとなる人材の育成を図るため、生涯学習コーディネーターを配置する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,285	2,285			
		(b)予算現額	2,285	2,285			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	2,285	2,285			
	B.執行済額		2,230	2,201			
	うち交付金充当額		1,784	1,760			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		97.6%	96.3%			
予算の状況の説明		不用額が84千円発生しているが、需用費の残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	生涯学習コーディネーター配置数 教育委員会1名	目標	(1名)	(1名)	()	()	
		実績	1名	1名			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	生涯学習コーディネーターの配置(教育委員会1人)を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(28年度)
	生涯学習コーディネーター配置 (教育委員会1人)	目標	()	(1名)	(1名)	()	()
		実績		1名	1名		
	生涯学習講座開催	目標	(7回)	(10回)	(10回)	()	()
		実績		10回	10回		
	講座受講者数	目標	(83名)	(100名)	(100名)	()	(累計400名)
実績			211名	202名			
進捗状況説明	・生涯学習講座(青少年・各種団体(成人者))10回、講座受講者数合計202名。 ・昨年度に引き続き、各種団体、成人者向け生涯学習講座を加えた10講座を開催した。その結果、前年度と同程度の参加者数を維持している。						

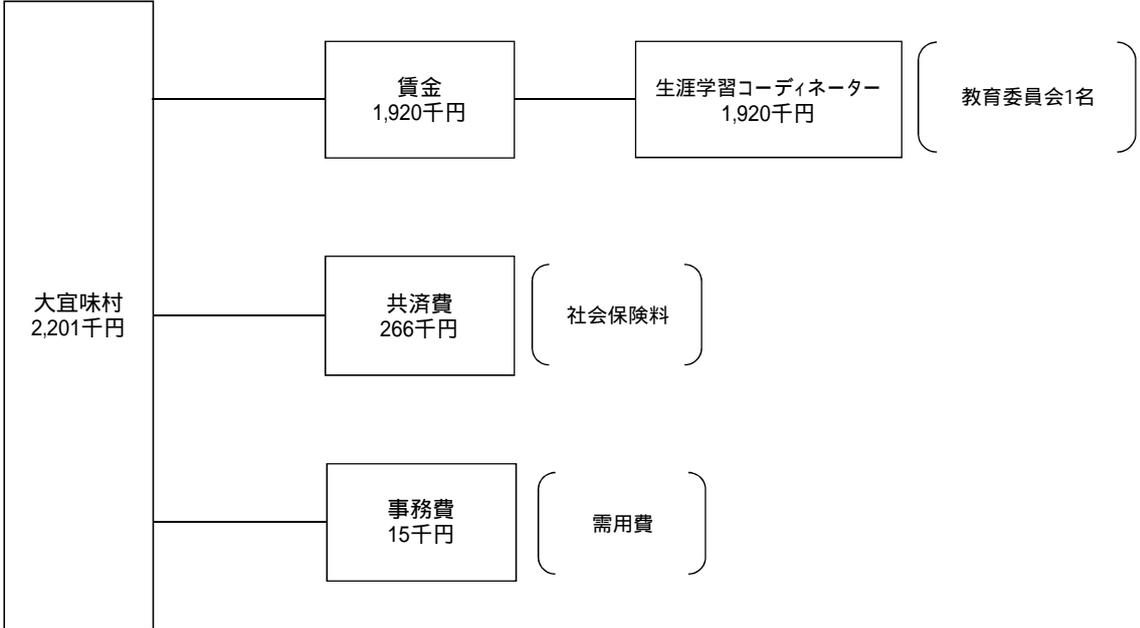
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・青少年は基本的に休日を活用し講座を開催しているが、休日のイベント等日程の調整が課題。各種団体等成人者向け講座においても同様で、他行事等の日程調整(開催日、時間など)が必要であったため、参加者のニーズに応じた講座開催を展開していく為、講座内容も含めたアンケート調査を講座参加者に実施した。</p>	<p>・講座開催の時間帯、開催日、講座内容など、アンケートの集計を参考にし、受講者の要望に対応していく。</p>

今後の取り組み方針

・青少年の学校外活動においては、平成26年度の課題となっている日程の調整を検討し講座を開催予定。年5回
 ・各種団体等成人者向け講座は、アンケートの結果を参考に開催日時、内容等の調整、新たに青少年の活動と合わせた講座を展開していく予定。年5回(内親子体験講座1回)

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,201	2,201	1,760	441	0



資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	大宜味村生涯学習コーディネーター配置要綱に基づき採用した。 予算規模及び事業内容については適正な規模であった。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		大宜味村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2- 児童生徒等県外派遣支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(4)-イ		
	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進						
担当部課名	教育委員会 教育課		事業実施(予定)年度 平成26～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所		
					-3-(1)		
事業内容	大宜味村に在住する児童・生徒(小学生・中学生・高校生)に対し、県外で開催される運動競技又は文化関係の大会に、予選及び審査等の結果、代表として参加する際の派遣費用を補助する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	846				
		(b)予算現額	846				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	846				
	B.執行済額		256				
	うち交付金充当額		204				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		30.3%				
予算の状況の説明		12月補正で846千円の予算を確保し、児童生徒等の派遣に備えていたが結果的に見込みよりも実績が伴わなかった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	児童生徒派遣費の一部を補助	目標	(派遣費の一部を補助)	()	()	()	()
		実績	13名				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	第14回全国小学生ソフトテニス大会(千葉県)8人派遣 第26回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会及び第30回ミズノカップ全国ジュニア選抜ソフトテニス大会(三重県)2人派遣 第21回ヨネックス杯九州中学校ソフトテニス大会(佐賀県)3名派遣 見込みよりも十分な派遣実績がなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	派遣対象生徒の大会派遣率100%	目標	()	(100%)	()	()	()
		実績		100%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	県外への大会派遣を行うことで、児童生徒、選手等との貴重な交流が図れ、島嶼列島である本村にとって、大会関係者及び保護者にも大きな経済的負担軽減に繋がっている。					

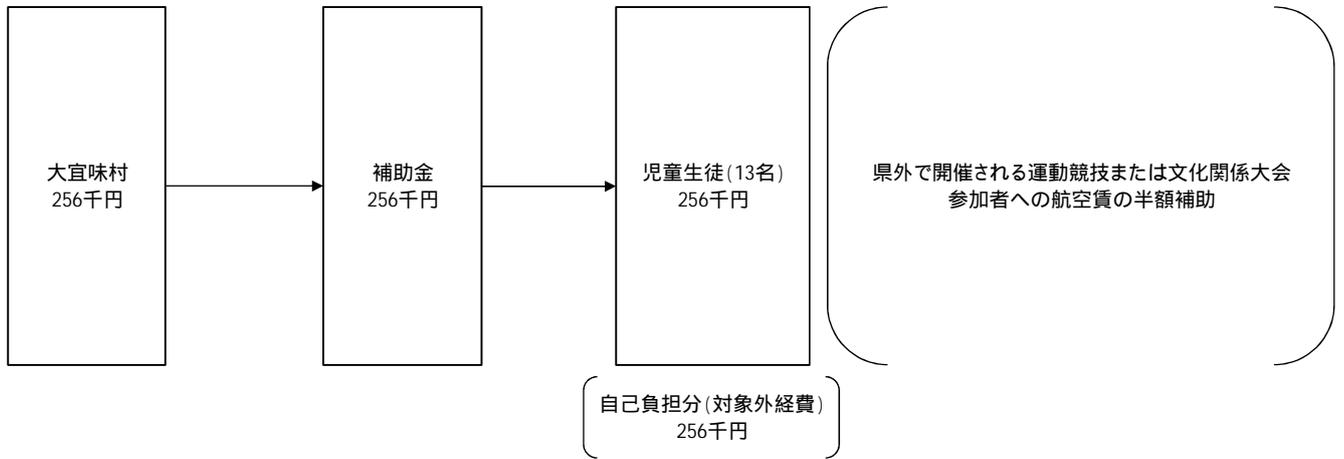
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>これまで県内各種大会等で高い成績と評価を受け、度々県外への派遣を得ているが、派遣費の捻出については自己負担が多く、日頃の努力により得られた機会を断念しなければならない状況もあった。そのため、保護者の負担軽減を図り、児童生徒等の県外派遣機会を拡充するため、児童生徒等の県外大会等派遣費用を助成する取組を行った。</p> <p>児童生徒等派遣支援事業の周知が十分とは言えず、広報誌等による情報提供の取組が必要である。また、各種大会等の派遣情報や対象人数の把握に努めるため、関係者等から派遣対象となるような情報を共有することが課題。</p>	<p>各大会等の情報収集等の取組が必要と考えており、各学校との情報共有の強化に努めていく。また、多くの児童生徒の県外派遣を支援できるよう、広報紙等により事業の周知を行う。</p>

今後の取り組み方針

村広報誌等での情報周知や各学校または保護者等へ呼びかけを行い、派遣の対象となる大会の把握や派遣に伴う情報の共有を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金	市町村負担金	
512	256	204	52	256



資金の流 れ、費 用、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	○支出先及び予算規模は事業内容に見合ったものと考えており、受益者との負担関係、事業目的に即した適正なものとなっている。
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	大宜味村
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-	沖縄特殊戸籍電算化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(5)-イ	
			戦後処理問題の解決		
担当部課名	住民福祉課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	- 12

事業内容
 福岡戸籍・臨時戸籍・受付帳は戸籍業務において、特殊な照会事例において用いられている基礎資料であり、当時の紙資料が保管されている。著しく劣化が激しいため電子データ化及び管理システムの構築を図る。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	15,876			
		(b)予算現額	9,396			
		(c)増減額(b-a)	6,480			
		(d)繰越額	-			
		A.計(b+d)	9,396			
	B.執行済額		9,396			
	うち交付金充当額		7,516			
	次年度繰越額		-			
	執行率(%) (B/A)		100.0%			
	予算の状況の説明		当初予算額と予算規模の差額については、随意契約におけるシステム導入費用等の減による。なお、執行率については100%である。			

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
紙戸籍の電算化の実施	目標	福岡戸籍数 1,560件 臨時戸籍数 9,799件 受付帖 2,744件	()	()	()
	実績	福岡戸籍数 1,414件 臨時戸籍数 3,848件 受付帖 3,291件			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	本事業において予定していた紙戸籍について、福岡戸籍については、目標件数から劣化の著しく進んでいるもの及び不要なものを除いて電算化している為、減となっている。 臨時戸籍の目標件数9,799件については、予算編成及び目標設定時において概算で算出した件数となっており、入札等委託業者選定時において、改めて精査した結果、3,862件まで減少している。さらに、実績件数3,848件については、福岡戸籍同様に劣化の著しく進んでいるもの及び不要なものを除いて電算化している為、大きく開きが生じている状態となっている。 受付帳については、目標のとおり電子データ化作業を行い、電算化を完了している。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
			沖繩特殊戸籍の電算化率	(100%)	()	()
			96.7%			
	目標	()	()	()	()	
実績						
進捗状況説明	長期保存の状況にある沖繩戸籍については、劣化が著しく進んでおり電子化ができなかったものや不要なものを除き、電算化を行ったため目標を達成できなかった。					

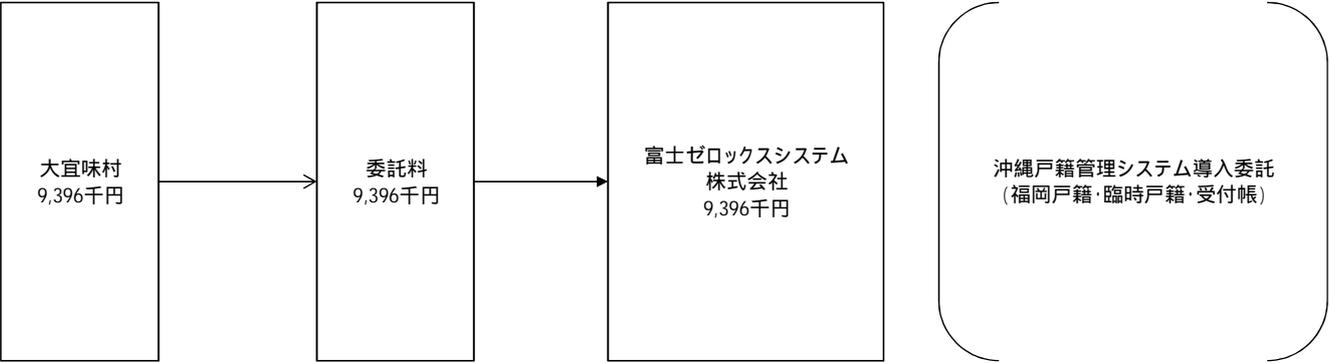
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>沖縄戸籍の電算化を行うにあたり、戸籍の劣化は著しく、早急に取り組む必要があることが今回の事業を行なっていく中で明らかとなった。沖縄戸籍においては米軍統治下時に本土との異法期間が生じていたこともあり、昭和初期生まれの方が死亡等により相続に関する調査や二重戸籍の訂正事項等に必要なものと考えられる。なお相続、戸籍訂正などの件数も増える可能性があるため、長期保存に対応でき、かつデータ管理システムの構築を行うことで、時間の短縮及び戸籍の連動性が行えるものとする。</p>	<p>これまで沖縄戸籍(紙戸籍)については、今回の電算化を行ったことにより、長期保存が可能となったが、今後はそのシステムを使用した沖縄戸籍の確認作業等をスムーズに効率よく行うことを検討する。</p>

今後の取り組み方針

沖縄特殊戸籍の電算化を行ったことにより、劣化の著しかった紙戸籍を現存の状態で管理することが可能となり、特殊な紹介事例の基礎資料として、戸籍法に準じて正確に確認し対応するため使用していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
9,396	9,396	7,516	1,880	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者の選定においては、随意契約であるが、時価に比して著しく有利な価格で契約を締結できることに加え他社の辞退もあり、妥当であったと考えている。予算規模及び事業内容については適正な規模であった。費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	